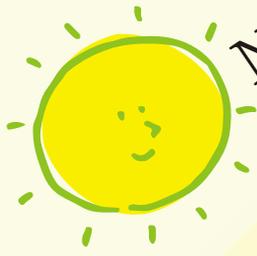


# あど・ねつと

NPO法人設立20周年記念号



舞台芸術鑑賞



夢と希望を持てる社会

体験はビタミン

おかやまプレーパーク

夏休みフリー塾

お好み演芸会

みんな和やかサロン

防災ワークショップ

キッズフェスティバル

科学の祭典

高学年キャンプ



47号

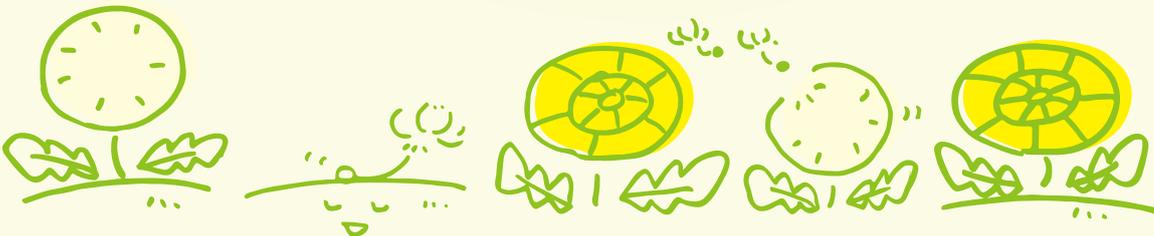
A あろぼう  
D どんどん  
O おおきくならう  
ひろげよう!

2021年5月25日発行  
特定非営利活動法人岡山市子どもセンター  
〒701-0144 岡山市北区久米348番地  
TEL 086-242-11810 Fax 086-242-11830  
http://www.kodomo-npo.jp/  
e-mail: info@kodomo-npo.jp

ひろげよう、  
体験の種。

子どもは、感動する体験の中で、豊かな自然の中で、おとなに愛される中で、失敗を重ね、立ち直っていく経験の中で、心豊かに育っていきます。そして、たくさんの体験が、身体のビタミンとなり、人生で出会う悩みなどに抵抗力がつき自己肯定感につながります。

岡山市子どもセンターでは、キッズフェスティバルをはじめ多くの体験活動を作ってきました。この体験というビタミンが、タンポポの綿毛のように、子どもの身体や、あらゆる人に飛んで行くこと、その場所で広がっていくことを願います。今後も活動を継続していきます。



# みんなの心にエルマーがいる

2020年11月3日(火・祝)、岡山市市民会館でNPO法人岡山市子どもセンター設立20周年記念事業として人形劇団ブーク公演「エルマーのぼうけん」を実施しました。

市民会館の座席はコロナウイルス感染防止対策として、1席空けて座席指定とし、入場口では検温、手指消毒、来場者にはマスク着用をお願いして開催しました。

「エルマーのぼうけん」はアメリカの児童作家R・S・ガネットさんの原作で、小さな頃から読み聞かせされ、初めて出会うぼうけんのお話として紹介され、読んでいる子どもも大人も多いと思います。ガネットさんは、子どもたちに、「私たちの心には、エルマーがいます。彼は飛びた

がっています。彼は自分の頭と心を使い、自分で考えることで、空を飛べるし、世界をもっとよい場所にできると、気づいたので、あなたにもきつてきます」とメッセージを送っています。

ガネットさんのメッセージは人形劇団ブークの人形遣い、人形の個性的な動き、舞台装置等、洗練された舞台の力によって、観ている子どもや大人の心に届き、エルマーの活躍にハラハラドキドキしながら大きな声援を送っていました。

来場者からは、エルマーが問題解決していく知恵と勇氣、自分の夢に向かって諦めない姿、そして親を信じる気持ちなどに、「感動した」「観てよかった」と、多くのメッセージやエピソードが



寄せられました。

今回の公演は、会員、一般の方、おかやま親子応援プロジェクトにより招待したひとり親世帯、児童養護施設の子どもたち、広域避難親子等2ステージで1000人の子どもと大人の来場がありました。

設立20周年記念事業「エルマーのぼうけん」は、支援会員、会員をはじめ、センター各事業の関係者、元会員をはじめ多くの応援者、人形劇団ブークの皆さんと力を合わせて取り組んだ、20周年記念鑑賞会になりました。



## 感想

### 子ども

- わたしもりゅうにのつてみたいです。(6歳)
- エリマーがりゅうをたすけるところ、りゅうをよんでいるところが、かっこよかったです。(1年)
- エルマーのリュックの中にたくさんのものがはいついてびっくりした。(10歳)
- ねずみの「おっとまちがい！」のところがかわいかった。(9歳)
- トラックのしゃっくりの「トラックトラック」というしゃっくりのしかたがおもしろかった。(10歳)
- こんなにおおきなゴリラは、みたことがないです。(6歳)

### 大人

- 今回ひとり親家庭の招待チケットをおくつていただき、鑑賞できる日を心待ちにしていた息子。息子は図書館で借りてきた「エルマーのぼうけん」を何度も読み、実際に人形劇を鑑賞できて感激していました。帰り道、自分の本にどうしてもしたいと、エルマーシリーズ3冊を購入しました。
- エルマーが強い信念を持って困難に立ち向かっていく姿に、とても心を打たれました。息子もこれから起るであろう様々な困難や試練にげげず立ち向かってくれたらいいなと思えました。動物たちやダンブやトラック達の悪者だけど憎めない愛らしき存在にほっこりと笑顔になりました。息子は「ずーっと笑いながら引きつけられて夢中で観ていました。」
- 最後に「お父さんとお母さんはきつと僕のことを信じてくれているはずだ」と言っていた場面に、この先息子にとっても母である私はいつだって自分の味方で自分を信じてくれる存在であってほしいという願いが重なりとても心に響きました。



## ひとりでも多くの子どもたちへ

### おかやま親子応援

岡山市子どもセンターでは、ひとりでも多くの子どもたち、親子に舞台芸術にふれる機会を提供したいと、児童養護施設の子どもたち、2011年の東日本大震災による広域避難親子を鑑賞会に招待していました。また、ひとり親世帯の親子にも鑑賞の機会を届ける

仕組みを作りたいとずっと模索していました。

今回、「#だれもひとりではない」と岡山で暮らすすべての家庭にそのメッセージを届けるとともに、おかやま親子応援プロジェクトのクラウドファンディングに多くの皆様方からご寄付をいただきました。

おかげさまで、11月3日(火・祝)NPO法人岡山市子どもセン

ター設立20周年記念鑑賞会「エルマーのぼうけん」へ、ひとり親世帯74世帯184名のご招待することができました。

このことは、コロナ禍の子どもたちに「何かできることはないか」と想いを持った団体と一緒に「おかやま親子応援プロジェクト」を立ち上げて実現したことです。

### 舞台鑑賞への期待

9月15日の夕方に親子応援メー

と翌朝には募集定員1000名をはるかに超える申し込みがあり、やむなく募集の打ち切りを決めました。子どもの豊かな感性や想像力を育む舞台芸術鑑賞へのニーズの高さや期待に責任の重さを感じるとともに、多くの方々のご希望に沿うことができなかったことは、今後の課題になりました。

### これからも連携して

コロナ禍で子どもへの体験の機会が奪われ、より格差が生まれ、

## 市民でも、ママ・パパでもこれだけのことができる

岡山市子どもセンターの役員、会員、ご関係者の皆さま、20周年おめでとうございます。子どもたちのために立ち上がったお母さんたちの会がここまで長きにわたる活動を継続され、また取り組みを発展させて来られるには多くのご苦労と工夫、葛藤など、外からは見えないご苦労と、一方で多くの喜びや成果があったことと

思います。今、子どもたちは様々なコンテンツがアルとインターネットに氾濫する中で新たな課題に直面すると共に、高度経済成長の時代からの変化、さらに近年のコロナ

災害等で格差が拡大する中で、様々な「子どもの権利」が脅かされる状況にあると思います。その中で、皆様には岡山市の「子どもセンター」として、活動を始められた頃の皆さんのように、新たに子ども支援・子育て支援に取り組もう、自分子どもや地域の子どもの育ちや環境のために行動しようとする方々の先輩役として、その立ち上げや取り組みのご支援をくださるような役割を果たしてください。

皆さんは、「市民でも、ママ・パパでもこれだけのことができる」という事実の証

明でもあると思います。一人でできることに限界がある中で仲間を集めてグループを組み、それが組織になり、そして今度は単一組織では難しいことに、複数の組織で取り組んでいく。そうしたことが大切な時代だと思えます。私どもも岡山県内を中心とした地域で自然治癒力の高いまちの実現を目指す組織として精進を重ねますので、どうぞ引き続きの連携を、よろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人岡山NPOセンター

代表理事 石原達也



20周年鑑賞会スタッフ





# 遊び心のある暮らしを続けよう！

特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会 代表  
プレイワーカー 関戸 博樹  
(岡山市プレーパーク普及事業で2年間、講師を担当)

## 外遊びの格差

新型コロナウイルス感染症によって暮らしが変容して1年以上が経ちました。

コロナ禍で子どもたちの遊びの実態がどの様な影響が出ているかを知りたいと思い、ネットで検索するといくつかの調査結果がでてきました。概ね「オンラインの時間が増え、外遊びの時間が減った」という傾向があらわれていました。また、子どもの発育上でも外遊びは重要とされているが、そうさせてあげられる様な場所がないという悩みを持つ親が非常に多いということもわかりました。

一方で私はこの1年間、プレーリーダーとして様々な地域の冒険遊び場に関わってきましたが、遊びに来る親子や小学生はコロナ以前よりも増えており、特にこの冬は昨年との人数比較としても倍近い傾向があり、外遊びのニーズ、そして子育ての場所として選択肢の上位に冒険遊び場が位置づけられる機会は増えたと感じています。しかし、これは地域に冒険遊び場やそれに類似する環境があるか否かによって差が大きく、先の調査結果と同様で外遊びの機会が減少してしまっている子どもの方が多数であると考えられます。

## 子どもの遊ぶ権利

子どもにとって、そして子育て中の親にとっても屋外で発散する機会は不可欠です。国連子どもの権利委員会の「新型コロナウイルス

## 遊ぶ営みは止まらない

どんな時でも子どもは日々遊ぶことで心身を育てており、その営みは止まることがありません。「遊ぶことを通して自分をかたちづくり、そして人生を手作りする力を得る。」そんな子どもの育ちを支えるために、親として、地域として、遊び場として、それぞれができることを重ね合いながら、遊び心を持ってこの危機的な状況を乗り越えていきましょう。

## 子どもの目線で

今年度はコロナという未知のウイルスの感染を防止したい気持ちと、子どもの遊びを保障したい気持ちと、どのようにバランスをとっておかやまプレーパークを開催していけばいいのか悩みながら、工夫しながらの1年間でした。



できる場になっていけばいいな、という思いと同時に、コロナ禍であらうとなかろうと今後も子どもたちが何を思っているのか？何をしたいのか？色々な行動から見えてくると思います。

子ども目線で関わることはいつまでも大切にしたいと思っています。

幼児と親たちが、こどもの森の公園の自然を感じながら絵本の読み聞かせや散歩をしたり葉っぱ、水、木の実などを使っての季節の遊びを楽しんでいます。



みんな乗ったり、引張ったり、大人気の乗り物



どンドン掘っちゃうよ、水も入れちゃえ！



あれ？なんで入れるの？



まさか：地下帝国への入り口…!?



## 岡山市プレーパーク普及事業 遊びと子どもと大人の関係

「子どもの遊ぶ声が聞こえる地域づくり」を目指し、岡山市地域子育て支援課と共に5年間取り組んできました。全国で活躍中の講師を招き、遊び場づくりに大切な「子どもと大人の関係」を地域の人たちと共に学び、各地域でプレーパークを開催しました。プレーパーク開催会場は18か所、各地域での養成講座受講修了者は90名になりました。この中から遊び場を継続するために6つの団体が立ち上がり活動を行っています。

プレーパーク開催会場には、子どもたちのエネルギーがあふれ、大人も含めたくさんの笑顔がありました。養成講座の各会場のふりかえりでは「楽しい」が共通ワードで、子どもを思う大人が元気になっていました。地域の方々とつながりが財産となり、少しずつ人の輪が広がっています。人と人とのつながり、「楽しい」と感じる力を大切に、さらに共感する大人を増やしていきたいと思っています。

子どもは育とうとしています。私たちが大人にできることは、子どもたちの発信に真摯に向き合い、その人の立場・職業・年齢に応じることができることを、楽しみながら精一杯やってみようと思ってきました。

## 緑の遊び場プロジェクト

## 街なかの自然で遊ぶ

あそびば！  
森で



「公園の効果的な利用により子どもの育ちに資することにも、街なかの魅力の向上に資することにも」を目的に、平成13年から岡山市庭園都市推進課からの委託を受け、実施しています。西川緑道公園は、豊かな自然と水が流れる岡山市のシンボルでもあります。この公園で、遊びを通して緑に親しみながら、多様な人とふれあい楽しく過ごす体験が子どもたちの原風景となること、また、市民が公園の利活用について主体的に考え、企画運営するようになることを願って実施しています。コロナ禍の令和2年秋の開催では、想定を超える参加がありました。継続して実施することで、普段は気づかなかつた豊かな自然や子どもが遊ぶ姿、多様な年齢の人が集いゆったりと過ごす心地良さを多くの市民に感じてもらうためのプロジェクトを通して、子どもが豊かに育つ地域をつくらせていきたいと思っています。

# みんな和やかサロン

みんなが笑顔  
なんでも話して寄り添うよ  
仲間を作って緩やかにつながるよ  
ごっこ遊びに砂遊び、たまには  
ケンカもする子どもたち  
優しく見守る大人たち  
輝く未来が集う  
サロンで楽しくすごそう!!



「おはよう、一番遠い所から来て一番乗りよ。」「今日も、寒いのによう来たね。」二人のお母さんに笑顔を向けると子どもたちはリュックを背負ったままグラウンドへ。就学前親子の居場所として8年続いている「みんな和やかサロン」のある朝の「コマです」。

核家族化や地域関係の希薄化、少子化等子どもの育ちや子育て環境の変化により、子育てに不安感や孤立感を感じる人が増えており、子どもの育ちや子育ては地域社会で支援していく必要があります。

## 就学前親子の居場所の実態とニーズ

令和元年度に子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる「居場所」の在り方を検討するために、就学

毎週サロンに行くことが習慣になり、「今日は和やかサロン？」と子どもから確認することも。一人で遊ぶことも、お兄ちゃん、お姉ちゃんのマネをすることも、ケンカすることも、「かーして」が言えるようになったことも、友だちと走り回ること、このサロンで学んだことです。寝かし付けに時間がかかること、野菜を食べたくないことなど、日々の悩みやグチが言い合える、笑って話せる、サロンの雰囲気が好きです。気が付いたら2年以上。一緒に育ててくださりありがとうございます。

参加者の声

コロナウイルスが流行し様々な制限がある中、どうやって子育てしていこうか、子どもにいろいろな経験をさせてあげたいの...と不安がいっぱいでした。しかし和やかサロンに行くようになって、いつの間にか火曜・水曜のルーティンになっていました。たくさんの人と顔を合わせてお話しすることで、孤独や不安も解消されたように思います。なによりまだハイハイもままならなかった娘が、サロンでいろいろな経験、刺激をうけ、素敵な表情を見せてくれるようになりました。この一年で急成長した娘を見守ることができ、また見守ってもらえて本当にうれしいです。

前の子どもを持つ保護者2520世帯に子育て状況やニーズを明らかにする調査を実施しました。(回答が得られた1275名分のデータを使用) この調査では、地域子育て支援拠点、児童館、親子クラブなどの認知度が79.6%であるのに対して、利用は17.0%希望は52.5%であり、知っていない利用したいとは思っているが利用につなげていないことがわかりました。また、居場所のニーズは、「身体を動かして遊ぶスペースがある」(84.4%)、「子どもが遊びやすいように遊具や場所が用意されている」(82.4%) など子どもの遊び場に関するニーズが高くなっています。

## 望ましい親子の居場所とは

ニーズ調査の結果を踏まえ、令和2年度は、岡山市市民協働推進モデル事業として「就学前親子の居場所づくり事業」を①ニーズ調査を踏まえた居場所の運営、周知②子育て不安や孤立感の解消、子どもの育ちの促進③スタッフの資質向上を目的に掲げ実施しました。場所はベターライフ御南の一室と園庭、時間は火曜日、水曜日は10時から13時、木曜日は14時から16時まで、各日スタッフ3

8か月で初めて参加していた娘も何度かくるうちに慣れてきて、同年齢やちょっと年上のお友だちにたくさん刺激を受けていました。外遊びも室内遊びも五感を使う遊びもたくさんできて、発達のためにすこよかったです。

木曜日の午後を開けてくださったので、幼稚園が違う子たちとも会える場があり、コロナ禍で大変ありがたかったです。未入園の子どもとママにとって、今は本当

名を配置し、室内遊びと五感を育てるのに不可欠な外遊びも充実させました。コロナ禍で開始も1ヶ月半遅れましたが、109日間開所し、登録世帯数は132世帯、利用者数はのべ2201名となりました。みんな和やかサロンだよりを毎月発行し、町内にも回覧、SNSで定期的に発信もしました。

どの利用者も孤立しないように積極的に声掛けして、利用者同士を繋ぎました。またスタッフと気軽に子育ての相談ができるよう日常的な会話から関係をつくりました。

専門講師による子育て講座や妊婦さんの交流会、おさんぽ遠足など利用者のニーズに応じて柔軟にイベントを運営してきました。

## 子育て支援の充実を目指す

令和3年度も岡山市市民協働推進事業として、前年度の目的を引き継ぎ、広く居場所が展開できるように「出張ひろば」も開催し、岡山市地域子育て支援課と共に、市全体の子育て施策の向上を目指して取り組んでいきます。

に出かけられる場所が少ないのでうれしいです。

大人にとっては何ということないお散歩でも、子どもにとっては大冒険で、あんなに遊べるものなんだと感心しました。

泥遊びが思いっきりできて、大満足です。

## 防災ワークショップ

### 命を守る 想像する力

東日本大震災が発生した翌年、全労済岡山県本部のバックアップのもと、岡山県内で子どもたちに防災のことを伝える活動をする団体のネットワーク「子ども防災ネットワークおかやま」のメンバーとして、防災体験プログラムを始めました。

対象者の小学生、幼児、乳幼児の親等が、災害発生時の状況を考え、防災に対する備えについて学ぶプログラムを、遊びを加えたワークショップ形式で工夫しながら9年間実践してきました。

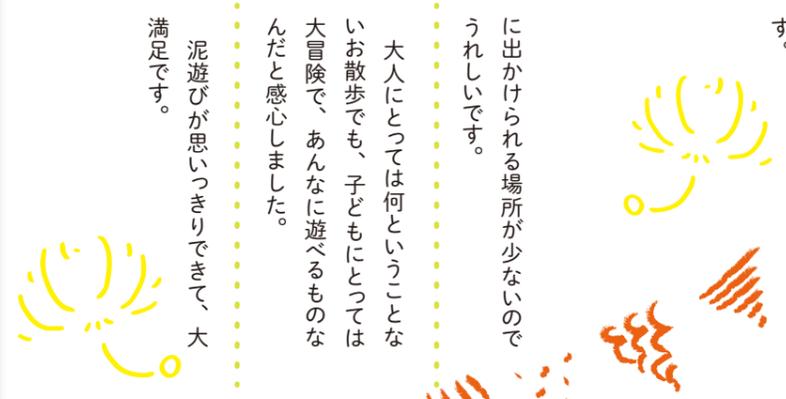
このプログラムは、参加者が楽しく体験することで、今まで想像できなかった災害発生時の状況を自ら考え、他者の考えを聞くことで、さらに気づきがある等、多角的に想像できる内容にしてい



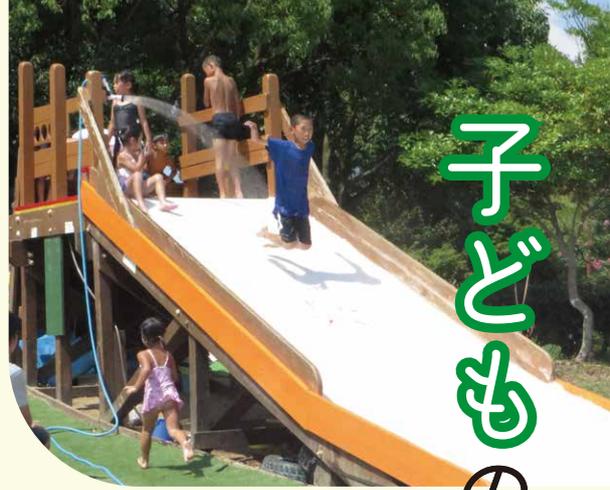
素足で卵の殻の上を歩き、災害時の危険を体験

ます。また、身近なものをそろえた防災グッズを紹介し、実際に手に取ってもらうことで日常生活につなげ、より自分事にもなっています。終了後の感想には、親同士、地域の方とのつながりの大切さを学んだ、家族で話そうと思う等が書かれています。

今後も、地域のつながりや家族で防災について話さきっかけとなるようなプログラムを増やしていきたいと思えます。そして、「自分の命は自分で守る」を伝え、災害に関する自助・共助・公助につなげていきます。



# 子ども豊かな育ちを願って



## NPO法人 設立まで

NPO法人岡山市子どもセンターは1969年10月に発足した岡山市子ども劇場を前身としています。1991年には岡山市内に岡山東部・西部・南・北・吉備路の5つの子ども劇場があり、子どもたちが人間として豊かに育つようお願い、心揺さぶられる舞台芸術鑑賞、子どもの自主性を尊重した異年齢集団での遊びを大切に取り組んできました。その間子どもたちに届けてきた鑑賞作品数は400作品以上、異年齢集団での体験活動の参加者は延べ約30万人になります。これらの活動を通して、子どもたちは感動、達成感、人間関係の楽しさを体験し、人と共感す

る感性や人への信頼、多様な価値観を育て成長してきました。

1998年の特定非営利活動促進法の成立に伴い、31年間にわたり子どもたちの豊かな成長を願い実施してきた様々な活動を、社会的により責任ある活動に発展していくために、法人格取得は不可欠であると考え、市内5つの子ども劇場が一つになり、2001年特定非営利活動法人（NPO法人）岡山市子どもセンター設立に至りました。



舞台芸術鑑賞会

## 20年のあゆみ

特定非営利活動法人岡山市子どもセンター定款の目的を「この法人は、子どもに対して、子どもの社会参画の機会の拡充を図るとともに、子どもに関する諸団体に対して、連絡、交流、支援等の事業を行い、よって、子どもの豊かな

成長に寄与することを目的とする。」とし、キッズフェスティバル、夏休みフリー塾、プレーパーク事業、舞台芸術鑑賞、みなん和やかサロンなど多くの事業を実施してきました。

## 体験は子どもの ビタミン

20年間で実施してきた主な活動への参加者は延べ68万人、鑑賞作品は185作品になりました。

夏休みフリー塾、キッズフェスティバルには子どもたちの頃の参加者が、ボランティアスタッフとして関わり、また、舞台鑑賞では親になり子どもと一緒に観劇する姿が見られます。このことは、子どもの頃の心に豊かな体験として刻まれていたからだと思います。20年間の実績を踏まえて今後も「子どもの豊かな成長に寄与することを目的」に活動を推進していきます。



太鼓ワークショップ



夏休みフリー塾



キッズフェスティバル

## 最高の文化体験

岡山市子どもセンターは、前身の子ども劇場時代も含め、52年間継続して子どもたちに良質で多様な舞台芸術を届けてきました。作品数は585作品以上、参加者約70万人にのびります。舞台芸術との出会いは、文化の多様性に触れ、想像力と創造力が広がり、子どもたちの生きる力を育みます。

文芸学者の故西郷武彦先生は、「お芝居を観ることは、一貫したひとつのテーマに付き合う時間を過ごすことであり、子どもは主人公

の気持ちになったり、主人公を客観的に見たりする体験を繰り返すことで、相手の気持ちを感じられるようになります。心が激しく揺り動かされることは普段の生活ではなかなか経験できないことです。いつもと違った時間を生きること

で感性が豊かになり、その積み重ねで豊かな心が育ち、子どもは成長していくのです。舞台鑑賞は最高の文化体験です。」とされています。子どもは権利条約31条の「文化的な生活及び芸術に自由に参加する権利」を引き続き擁護し、文化・芸術活動、レクリエーション、余暇活動の体験機会を創出します。そのためにも、子どもの文化をつくり続ける団体としてネットワークを拡げ、今後も子どもたちが芸術や文化に触れ、感性を磨くことができる作品を届けていきます。

### 20年間の事業実績 (2001年～2020年)

事業名	参加延べ人数
舞台芸術鑑賞	117,914
夏休みフリー塾	110,772
キッズフェスティバル	161,900
プレーパーク	245,920
緑の遊び場プロジェクト	12,322
プレーパーク普及事業	8,256
みなん和やかサロン	16,553
防災ワークショップ	1,178
科学の祭典	5,026
お好み演芸会	5,353
合計	685,194

